

令和7年度 施政方針

施政方針とは、市政運営に関する方向性を示したものです

この先もずっと

安心して住み続けられる

四国中央市へ

のない診療体制を構築していきま
す。

地域産業の支援・強化

本市の基幹産業である紙産業につ
いては、人手不足や物価高騰、エネ
ルギー転換などへの対応が迫られて
います。本市では、各種補助金の交
付や合同企業説明会の開催、中高生
に対する紙の体験教育の実施などを
通じて、経営基盤の強化と人材定着
の促進を図っていきます。



地球温暖化対策

「日本一の紙のまち」である本市
では、産業部門における温室効果ガ
スの排出量が多大であり、排出抑制
が脱炭素社会実現の鍵となっていま
す。

この課題に、行政と四国中央市
カーボンニュートラル協議会を始め



東予東部3市子ども急患センター
(新居浜市一宮町)



ものづくり体験講座発表会
(三島南中学校)



カーボンニュートラル協議会
(令和6年11月1日川之江ふれあい交流センター)



給食を食べる園児たち (松柏保育園)



福祉型障害児入所施設建設予定地
(子ども若者発達支援センター・下柏町)

防災・減災対策と インフラ整備

「**防災・減災対策とインフラ整備**」
昨年の「南海トラフ地震臨時情報」
の発表や本年1月の南海トラフ巨大
地震の発生確率の引き上げなど、大
規模地震への緊張が高まる中、本市
においても、大規模災害への備えを
今一度、早急に取り組む必要があり
ます。

そのような中、活躍が期待される
防災士については、防災・減災技能
の研鑽や防災リーダーとしての自覚
を醸成するため、今年2月に**四国中
央市防災士ネットワーク**を設立しま
した。これまでの養成事業に加えて、
ネットワークを核とした防災士の育
成を図るとともに、自主防災組織や
消防団との連携を強化することによ
り、地域防災力の向上に努めていき
ます。

また、多発化、多様化、頻発化す
る災害などに迅速かつ確実に対応す
る



防災士ネットワーク設立式
(令和7年2月22日 消防防災センター)



北地区交流センター完成予想図
(令和7年夏開館予定 土居町蕨崎)



城山下臨海土地造成事業
(令和6年12月10日撮影 川之江町)



新法皇トンネル整備要望
(令和6年10月2日 国土交通省)

べく、四国中央市、新居浜市、西条
市の3市において、**愛媛東予東部消
防指令センター**の令和9年度末の運
用開始を目指して、計画的な整備を
行っています。

天満・蕨崎地区において整備中の
北地区交流センターにつきましては、
地域に親しまれる施設、災害時
の拠点施設として、今年夏頃の開館
を目指し、着実に取り組めます。

また、企業用地の確保と防災・減
災効果を目的として実施している**城
山下臨海土地造成事業**は、計画通り
に進捗しており、今後も関係機関と
連携を図りながら、令和11年の完成
に向けて進めていきます。

三島川之江港は、コンテナ貨物取
扱量が堅調に推移する中、既存施設
の老朽化対策や防災拠点としての環
境整備の必要性が高まっています。

また、**国道11号川之江三島ハイバ
ス**は、交通混雑の緩和だけでなく、
災害時における緊急輸送道路として

保育・子育て支援

保育需要が増加する一方、少子化
は急速に進んでおり、民間保育施設
では、今後の運営見通しへの危機感
が強くなっています。こうした状況
を踏まえ、官民の垣根を超えて、需
要に応える体制を整え、ともに、**園運営に係る経済的支援**を実施し、
安定化を図っていきます。

また、学校教育では、子どもたち
の**学びを支えるICT環境の構築**に
努めるとともに、デジタルの活用に
より、教職員の業務改善や働き方改
革にも取り組みながら、さまざまな
個性を持つ児童生徒一人ひとりを大
切に、あたたかな教育を充実させて
いきます。

そのほか、子育て世代の負担軽減
を図るため、令和7年度も**学校給食
費と保育園等副食費の無償化事業**を
継続して実施します。

持続可能な 医療提供体制の構築

の役割が有ることから、一日も早い
全線整備が急務となっています。地
域産業の基盤づくりと防災力強化の
観点から、引き続き整備促進に取り
組んでいきます。

併せて、**新法皇トンネル**の早期整
備につきましても、嶺南地区の活性
化や本市の産業を支えるダムの維持
管理に必要であることに加え、災害
発生時における集落の孤立化や救助
活動の遅延を防ぐために、粘り強く
要望活動を行っていきます。

共生社会の実現

障害者支援施設太陽の家成人部を
今年4月に民間移譲しますが、児童
部については、公設公営による**福祉
型障害児入所施設**として移転新築
し、令和8年4月の開設を目指して、
整備を進めていきます。

また、高齢者や交通弱者の生活に
欠かすことのできない**デマンドタク
シー**については、利用者にとって満
足度や利便性の高い運行ができるよ
う改善に取り組めます。人にやさし
いまちづくりの基盤となる公共交通
体制の構築に向けて、効果的な施策
を進めていきます。

支え合い
未来へつなぐ
魅力都市